

2025年度 00) ISEE Symposium 目次詳細

1 件

*所属・職名は2026年3月現在

*Affiliation and Department displayed are current as of March 2026.

研究代表者 Principal Investigator	所属機関* Affiliation	所属部局* Department	職名* Job title	研究課題名 Project Title	頁 Page	備考 Remarks
坪木 和久	名古屋大学	宇宙地球環境研究所	教授	【2025年度開催】 東アジアの豪雨と台風に関する国際シンポジウム	1	

(別紙様式00-2)

International Symposium on Heavy Rainfall and Tropical Cyclone in East Asia —Professor Hiroyuki Yamada Memorial Symposium—

坪木和久、名古屋大学・宇宙地球環境研究所

2025年12月1日～3日に名古屋大学ES総合館ESホールにて、ISEEシンポジウム2025を開催しました。参加者が総勢約60人で、海外からは米国、台湾、韓国から約20人を招聘し、国内からは、坪木が研究代表者を務めるT-PARCII (Tropical cyclones-Pacific Asian Research Campaign for Improvement of Intensity estimations/forecasts)プロジェクトの関係者、気象研究所と横浜国立大学台風科学技術研究センターの研究者、および台風や降水を研究する大学や研究機関の研究者・大学院生が参加しました。

このシンポジウムの目的は、2022年6月～8月に沖縄・台湾領域で実施した豪雨と台風に関する国際共同研究の成果をとりまとめ、北太平洋西部の台風や大気の大気観測についての最新の成果を共有することでした。さらに日本、米国、台湾、韓国による、この領域の航空機観測について将来計画を議論することももう一つの重要な目的でした。

この国際共同研究は、台湾のTAHOPEプロジェクト、米国のPRECIPプロジェクト、韓国のKPOPプロジェクト、および上記の日本のT-PARCIIプロジェクトが連携して観測を行うもので、特に与那国島から台湾領域ではおよそ3ヶ月にわたるレーダや高層気象観測を中心としたフィールド観測プロジェクトが実施されました。さらに時期を同じくして気象研究所が九州～沖縄領域で特別観測を実施し、上記のプロジェクト群と連携して大規模なフィールド観測プロジェクトとなりました。シンポジウムの冒頭では、坪木が上記のT-PARCIIについて、台湾のMing-Jen Yang教授がTAHOPEの成果について、米国のM. Bell教授がPRECIPについて、そして韓国のGyuWon Lee教授がKPOPについて総括的報告を行いました。どのプロジェクトもモンスーンの豪雨や台風について、フィールド観測から得られた最新の知見を披露しました。

続いて、気象研究所の藤田氏が、同時に実施された気象研究所を中心とする国内多大学参加の特別観測の成果を取りまとめました。そのうえで、上記プロジェクト群との連携の重要性を強調するとともに、データ共有が可能であることを示しました。これらに続いて、2025年にT-PARCII、気象研究所、横浜国立大学台風科学技術センターの三者共同で実施した台風および豪雨をもたらした大気の大気観測について、速報的研究発表が多数続き、日本国内で航空機観測が活発になったことを印象づけました。

シンポジウム二日目には国立台湾大学の Chun-Chieh Wu教授が、台湾で開始した台風の航空機観測プロジェクトからその後続いた観測プロジェクトと航空機観測の発展について、包括的にまとめ、そのなかでT-PARCIIの位置づけが明確にされました。また、航空機観測について韓国と米国の現状が報告され、台風などの航空機観測の国際協力について議論されました。

本シンポジウムは、上記の研究で中心的役割を果たすとともに、ISEEの共同利用・共同研究にも大きな貢献のあった琉球大学の山田広幸教授のメモリアルシンポジウムでもありました。ほとんどの参加者が山田先生と親交があり、各発表の中でその早すぎる逝去を悼みました。山田先生のこれまでの足跡をたどることで、この研究コミュニティの国際的なつながりがこれまで以上に強固なものとなりました。本シンポジウムは将来の国際共同研究の礎となり、国際的な連携がさらに発展していくことを期待させました。これも山田先生の遺された大きな功績といえます。

本シンポジウムでは、台風や豪雨について、観測、シミュレーション、理論などの多くの重要な研究成果が発表されただけでなく、北太平洋西部における台風や大気の大気観測を、国際共同研究として発展させる重要な契機となりました。最後にシンポジウム実施にあたり、多大なご支援をいただいた関係各位に深く感謝申し上げます。なお、本ISEEシンポジウム2025の詳細については、次のウェブサイトを参照ください。http://www.rain.hyarc.nagoya-u.ac.jp/~tsuboki/isee_sympto2025/isee2025_symposium.html